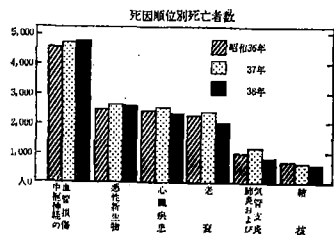


103. 原因別死亡者数 (1)

昭和9~11年当時の平均死亡率は、人口1,000人に対して18~19人であったが、昭和28年以降の死亡率は10人以下となり、38年は7.4人に低下した。

死因別にみると、脳卒中25.9%、悪性ガン14.2%、心臓疾患12.6%、老衰10.9%が特に多く、これらの原因によるものが全体の63.5%を占めている現状である。



死因	昭和36年	昭和37年	昭和38年
総数	19 271	20 089	18 353
呼吸器系の結核	625	627	549
その他結核	47	37	23
毒およびその続発	55	43	37
腸チフス	—	1	—
赤痢	74	41	25
しょうじょう	—	—	—
紅熱およびレンサ球菌口炎	—	—	—
ジフテリア	6	6	2
百日咳	—	4	1
髄膜炎	—	2	3
急性細菌性髄膜炎	3	1	1
麻疹	26	12	11
発疹チフスおよびその他のリケッチャ病	—	—	—
マラリア	1	—	—
伝染性および寄生性として分類されたその他の疾病	108	120	89
悪性新生物	2 472	2 614	2 597
良性および性質不詳の新生物	131	129	144
糖尿病	95	95	105
貧血	31	29	33
中枢神経系の血管の損傷	4 546	4 700	4 752
髄膜炎	32	36	28
リウマチ	22	26	18
慢性リウマチ性心臓疾患	147	123	119
動脈硬化症および変性性心臓疾患	1 469	1 534	1 495
その他心臓疾患	488	481	346
高血圧性心臓疾患	300	377	350
その他の高血圧性疾患	246	219	194

103. 原因別死亡者数 (2)

死因	昭和36年	昭和37年	昭和38年
肺炎	49	286	8
インフルエンザ	805	932	626
管炎	190	228	159
胃腸炎	349	326	304
虫垂炎	26	23	26
腸閉塞	109	115	95
胃腸炎、十二指腸炎、腸炎	405	382	353
肝臓病	147	176	177
腎臓病	415	318	304
前立腺肥大症	13	12	16
妊娠分娩	60	49	47
先天異常	94	98	105
出生時の損傷、分娩後窒息	49	62	51
新生児の感染症	132	126	108
その他新生児固有の疾患	518	455	419
未熟児	—	—	—
精神病の記載のない老衰ならびに診断不適合	2 240	2 360	1 997
その他	1 339	1 472	1 324
自殺	319	459	422
その他	567	564	516
自殺	418	350	342
他殺	43	39	31

104. 理、美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普通旅館	公衆浴場	温泉利用	興行場	クリーニング所
昭和31年1)	2 226	953	992	308	12	125	473
32 1)	2 383	1 044	1 042	324	16	121	515
33 1)	2 454	1 198	1 096	337	12	137	612
34	2 587	1 301	1 244	353	29	132	795
35	2 663	1 369	1 312	350	32	158	812
36	2 737	1 482	1 077	366	36	157	894
37	2 818	1 574	1 136	373	39	155	893
38	2 936	1 713	1 603	378	41	144	951

環境衛生課調 注) 1)は3月31日現在の数である。38年の普通旅館にはホテル、旅館および簡易宿泊業を含む。